

第 37 回歴史地震研究会（伊賀大会）のお知らせ（第 3 報）

第 37 回歴史地震研究会（伊賀大会）のプログラムが決定いたしました。研究会参加，講演要旨送付，公開講演会・懇親会・巡検参加申し込みの締め切りは 7月31日（金），申込先・送付先は，8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先にあります。

公開講演会

1. 場所

ハイトピア伊賀 5階 多目的大研修室・学習室

三重県伊賀市上野丸之内 500 番地（伊賀鉄道 上野市駅 徒歩約 2 分）

<http://www.haitopia-iga.jp/>

2. 日程および参加費

2020 年 9 月 26 日（土）～29 日（火）の 4 日間

26 日 13:30～16:30：公開講演会

27 日 9:30～17:15：研究会，18:00～懇親会

28 日 9:30～17:45：研究会・総会

29 日：巡検

- ・公開講演会は無料（会員，非会員とも），会場は多目的大研修室（13 時開場）です。
- ・研究発表会は大会参加費として会員 2,000 円，非会員 4,000 円（いずれも課税対象外）を徴収します。
- ・研究発表会の会場は多目的大研修室（9 時開場&受付開始）です。
- ・懇親会（会費 6,000 円程度）はヒルホテル サンピア伊賀で開催します。なお，懇親会場まではマイクロバスによる送迎があります。
- ・巡検の参加費は 6,000 円程度の予定です（昼食・保険含）。
- ・例年，公開講演会，研究発表会については参加申し込みを不要としておりましたが，今年は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から事前の参加申し込みをお願いします。参加申し込みは 7月31日（金） まで。申込先は 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

3. 講演要旨について

発表 1 件につき A4 サイズ 1 ページ（厳守），カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット（Word ファイル）を書き換える形で原稿を作成のうえ，原則として Word ファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7月31日（金） 必着といたします。原稿の送付先は，8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

※要旨の標準フォーマット <http://www.histeq.jp/doc/AbstractFormat.doc>

4. 発表について

口頭発表で使用する PC は Windows1 台, Mac1 台をこちらで準備いたします。当日は事前にファイルを集約する予定です。ご発表前の休憩時間までに USB メモリ等でご提出ください。各自でご用意いただいた PC を接続することもできます。

ポスター発表で使用するボードの貼付面のサイズは、高さ 180 cm×幅 120 cmです。これに収まるよう作成してください。縦長ですのでご注意ください。

5. 公開講演会

表題：三重県を取り巻く歴史地震～様々な視点から

講演：

○塚本 明 氏（三重大学人文学部 教授）

『語り伝えられた地震津波－熊野灘における宝永地震と安政地震を中心に－』

○中井 均 氏（滋賀県立大学人間文化学 教授）

『地震により崩壊した城郭石垣の修復について－考古学的視点から－』

○林 能成 氏（関西大学社会安全学部 教授）

『歴史から学ぶ地震防災』

参加費等：入場無料，事前申し込み要，先着順，定員 100 名

参加申し込みは 7月31日（金） まで。申込先は 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

6. 懇親会

日時：9月27日（日）

場所：ヒルホテル サンピア伊賀

参加費：6,000 円

参加申し込みは 7月31日（金） まで。申込先は 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

7. 巡検

行程：

9:00 上野市駅前出発，16:00 近鉄伊賀神戸駅・16:30 近鉄名張駅解散

服部川供養塔，岩倉峡公園，長谷園（伊賀焼窯元），昼食，崇廣堂，伊賀上野城，忍者博物館，大村神社（バス移動）

参加費：6,000 円（昼食・保険含）

定員：40 名程度

・参加申し込みは 7月31日（金） まで。申込先は 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

・保険加入のため，氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。

・巡検の参加受付は，会員及び研究発表会参加者を優先します。

8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先

◇Web フォームの場合：<https://forms.gle/76TryWGya8vGFTLA9>

※巡検のお申込をされた方は、保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）を、後日こちらからお伺いいたします。

◇電子メールの場合：rekishi2020@histeq.jp

第37回歴史地震研究会行事委員会

益野行輝（委員長）、馬場俊孝、室谷智子、小松原琢、大邑潤三

※巡検のお申込をされる方は、保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。

◇手紙の場合

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学 地震研究所 1-612

歴史地震研究会行事委員会 大邑潤三 宛

※巡検のお申込をされる方は、保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。

9. その他

現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、様々な催し物が中止又は延期されております。今後状況が好転しない場合、プログラムの一部又は全部（懇親会、巡検を含む）を中止する場合がありますので、予めご了承ください。

なお、上記8. までの参加お申込みの後、状況により急遽キャンセルをご希望の場合は、前日までキャンセルを受け付けます。8. の電子メールによりご一報ください。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、以下についてご理解、ご協力をお願いいたします。

- ・当日は、会場へのご入場前に検温を実施させていただきます。体温が37.5度を超える場合、参加をお断りする場合があります。
- ・大会中、参加者の皆さんにはマスクの着用をお願いします。各自でマスクをご持参ください。
- ・大会の情報はホームページ上で随時更新いたします。<http://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

第 37 回歴史地震研究会（伊賀大会）プログラム

9月27日（日）

研究発表会（第1日） 受付9時15分～

口頭発表セッションⅠ 歴史地震全般 9:30～10:30

O-01 西村裕一・篠崎鉄哉・千葉 崇

歴史津波の堆積物を用いた津波堆積物の認定条件の検証

O-02 石辺岳男・松浦律子・古村美津子・赤塚真弓・田力正好・岩佐幸治・榎原雅治・佐竹健治

有感地震記述ならびに震度の距離減衰式に基づく地震活動解析に向けて

O-03 近藤 斎・大杉 節・榎本祐嗣

根尾谷断層におけるガンマ線強度・スペクトル測定

O-04 山中佳子・宇佐美龍夫

歴史地震総表のWEB 検索システムの構築

休憩<15分>

口頭発表セッションⅡ 関東地方の地震と諸現象 10:45～11:45

O-05 馬場道人

海老原文書を用いた安政江戸地震の余震活動の分析

O-06 佐竹健治・石辺岳男

史料から長期的地震活動を均質に推定する試み：東京における1668～2019年の年毎の有感地震回数

O-07 武村雅之

関東大震災と東京：復興小公園の100年

O-08 井上公夫・相原延光

山梨県東部・相模川流域の土砂災害と「びゃく」の地名との関連

昼休み<1時間>

ポスターセッション コアタイム 12:45～13:30

休憩<15分>

口頭発表セッションⅢ 東北地方の地震と諸現象Ⅰ 13:45～14:45

O-09 蝦名裕一

慶長奥州地震津波に関する史料の記述と伝承の継承

O-10 室谷智子・佐竹健治・石辺岳男

日本海で発生した地震の断層モデルによる津波波形と津波痕跡高の比較

O-11 石村大輔・蝦名裕一

岩手県山田町小谷島の津波伝承に関する歴史・地質学的検討

O-12 河内一男

閑上と汰上は津波起源の地名か

休憩<15分>

口頭発表セッションIV 東北地方の地震と諸現象II 15:00~16:00

O-13 樋口茂生・高橋 明・坂東和郎

続 新潟旧寄居村周辺における 1964 年新潟地震地盤災害の見直しー明治初期の新潟
営所設置等人工改変と災害との関わりー

O-14 佐々木 淳

享徳地震発生日が命日と推定できる板碑について

O-15 沼田 清

末崎仁平の明治三陸津波写真をめぐる三資料

O-16 松岡祐也

宮城県石巻測候所による昭和三陸地震津波の現地調査ー3種の報告書の比較ー

休憩<15分>

口頭発表セッションV 南海トラフの地震と諸現象I 16:15~17:15

O-17 小松原琢

史跡の残存状況からみた戦国時代における伊勢湾内の津波に関する検討

O-18 楠本聡・今井健太郎・大林涼子・高橋成実・堀高峰

遠地津波波形から推定される 1854 年安政東海・南海地震の津波励起時刻

O-19 今井健太郎・都司嘉宣・蝦名裕一・柄本邦明・岩瀬浩之

1854 年安政南海地震による高知県沿岸における津波痕跡高の再評価

O-20 前田正明・阪本尚生

和歌山県内に残る宝永・安政地震関係資料の所在確認調査とその活用

懇親会 18:00~

9月28日(月)

研究発表会(第2日) 受付9時15分～

口頭発表セッションVI 南海トラフの地震と諸現象II 9:30～10:30

O-21 北原糸子

占領下の地震災害－和歌山県新庄村『昭和の津波』を読み直す

O-22 新田康二

昭和東南海地震モニュメントの建立と時代的背景

O-23 都築充雄

安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その6) 西三河全域における文献調査

O-24 都司嘉宣・増田達男

火災発生件数は安政東海南海地震が38件、宝永地震が1件(宿毛)、なぜこんな大差がある?

休憩<15分>

口頭発表セッションVII 南海トラフの地震と諸現象III 10:45～11:45

O-25 西山昭仁

宝永地震(1707年)前後の京都における有感地震の検討

O-26 坂本正夫

安政東海地震(1854)における伊那谷(長野県)の被害調査

O-27 和田祐香・松多信尚*・石山達也・廣内大助

堀川運河の利用変遷から推定される富士川河口断層帯・入山瀬断層の安政東海地震

O-28 平川一臣・藤城信幸

古文書記載と宝永・安政地震時の渥美半島海食崖崩落

昼休み<1時間>

ポスターセッション コアタイム 12:45～13:30

休憩<15分>

総会 13:45～14:45

休憩<15分>

口頭発表セッションⅧ 中部地方の地震と諸現象 15:00～16:00

- O-29 石橋克彦
M~7.9 とされる 745 年天平美濃地震が過大評価である可能性
- O-30 今村隆正
愛知県の歴史地震と土砂災害
- O-31 加納靖之
1854 年伊賀上野地震の際の福井の液状化記事
- O-32 松尾裕治・松本秀應・村上仁士
嘉永 7 年伊賀上野地震に伴う満濃池決壊

休憩<15分>

口頭発表セッションⅨ 西日本の地震と諸現象 16:15～17:45

- O-33 大邑潤三
1830 年文政京都地震による人的被害の発生要因
- O-34 水田敏彦・鏡味洋史
1925 年北但馬地震直後の踏査報告の足跡をたどって
- O-35 榎本祐嗣・山辺典昭・杉浦繁貴・近藤 斎
1995 年神戸地震直前直後、西の夜空は何故明るくなったのか？
- O-36 松浦律子・中村 操
1700 年壱岐・対馬の震源断層について
- O-37 宍倉正展・西浦蒼生・前杵英明
弘化四年（1847 年）瓦版に記された丹後国・上り山地変の実態
- O-38 松井敬代
城崎温泉観光図（前田虹映鳥瞰図）に描かれた景観から

ポスター発表

- P-01 石橋克彦
15 世紀のプレート間・関東地震の再検討：1433 年永享地震と 1495 年明応地震
- P-02 石橋克彦
15 世紀に相模湾北部の江の島で地殻変動が生じたか？

- P-03 上田貴和子
アメリカ合衆国における災害救援の歴史と、転換点としての1906年サンフランシスコ大地震
- P-04 山村紀香・小泉尚嗣・中村 衛
地変・被害から推定する1909年姉川地震の詳細地震像
- P-05 水田敏彦・鏡味洋史
1918年大町地震の被害に関する文献調査—スペイン風邪流行下での被害地震—
- P-06 青島晃・土屋光永・中野幸子・野嶋宏二・松井孝友
アンケート調査による1944年東南海地震の静岡県浜松市の液状化現象
- P-07 西村裕一
ロシアの報告書に記録された1983年日本海中部地震津波と1993年北海道南西沖地震津波の沿海州における挙動
- P-08 久永哲也・内田篤貴・椋代大暉・佐々木哲朗・小川典芳・浦谷裕明・武村雅之・都築充雄
東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について
(その2)
- P-09 谷川亘・内山庄一郎・浦本豪一郎・鈴木比奈子・大橋育順
SfMとDSMを用いた地震津波碑のデジタル複写による文字の判読
- P-10 相原延光・井上公夫
南関東の土砂災害地名「びやく」とその語源について
- P-11 荒井賢一・篠田海遥
埼玉県所沢市に残る1923年関東地震および1924年丹沢地震に関する記録
- P-12 篠田海遥・荒井賢一
埼玉県本庄市に残る1923年関東地震に関する記録～本震直後に生じた人々の混乱～